

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0491200135 | | |
| 法人名 | 株式会社只野製作所 | | |
| 事業所名 | グループホームきずな | | |
| 所在地 | 宮城県登米市豊里町新町10-4 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年1月24日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階 | | |
| 訪問調査日 | 平成30年2月20日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設に入居して良かったと思っけて頂ける様、利用者様・家族様の立場に立ち、日々安心して過ごして頂ける様にケアしております。居室には家族様が面会に来て頂いた際に撮った写真などを飾り、賑やかな雰囲気となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人只野製作所は不動産賃貸事業(倉庫)、一般労働者派遣事業、設備製作事業を運営している。事業所は、昨年5周年を迎え、近隣には協力医療機関の豊里病院や小・中学校があり、利用者が運動会や学芸会を見に行くなど、子ども達と日常的に接する事のできる環境にある。地域との繋がりも深められており、事業所の避難訓練に地域住民の参加協力を得て、ADEの講習会に参加してもらうなど、交流が図られている。また、町民文化祭には利用者の作品を出品展示するなど、地域に密着した取り組みを推進している。利用者職員が心から信頼関係を結び、笑顔で過ごせるように以前作成した理念「利用者スタッフとスタッフが心から信頼し心から笑える」の実践に努めている。共用空間では、利用者が一日過ごす姿も見られ、居心地の良さが感じられる。管理者を中心に、職員同士のコミュニケーションを図り、笑顔あふれる明るい職場を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|--|--|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHきずな ）「 ユニット名 グループホームきずな 」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 実践に繋げる様に図っている。 | 毎年、理念を見直している。今年は理念を継続することにし、職員が常に確認できるよう、玄関と職員用トイレに掲示している。利用者に信頼され、お互いがいつも笑顔でいられるよう、日々のケアに努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内清掃・花植えなど地域の行事に参加している。昨年は認知症カフェに参加した。 | 町内会に加入しており、地域の行事への参加や事業所の行事への住民参加など、日常的に交流が図られている。2ヶ月に1回発行の「きずな通信」も全戸に配布しており、地域との繋がりひとつになっている。。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議に参加頂いた際に伝えている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 意見を伺い、指摘・指導・助言あれば実践している。 | 町内会長、地区区長、近隣住民、地域包括職員、市職員、家族代表、利用者が参加し、年6回開催している。入居者の状態、事業所の行事、ヒヤリハット・事故などの報告、意見交換を行い、運営に反映している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 2ヶ月に1回の運営推進会議に参加頂いている。 | 運営推進会議に市職員が出席し、情報提供や事故報告に対してのアドバイスをもらうなど、連携が図られている。地域で開催の地域ネットワーク会議や研修会に参加するなど、市との協力関係も築かれている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 拘束ケアは行っていない。 | 利用者が外出を希望する時には、職員が同行している。近隣の散歩の際には、地域住民に声をかけられ、見守ってくれることもある。身体拘束に関するマニュアルにそって日々のケアに努めている。玄関の施錠は夜7:00～朝7:00までである。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待のないケアを行っており、今後も防止に努める。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|------------------------------|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修会で学んでいる。ケア者はそれを踏まえて支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際に説明行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に要望等記載できるように「意見箱」設置している。 | 家族の声は、面会時や運営推進会議時に聞いており、遠方などの理由で面会に来られない家族からは、毎月出す「お便り」で情報提供をし、意見を聞いている。利用者の声は、職員を1～2人の担当制にし、直接要望を聞き応えるようにしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全てが反映されている訳ではない。 | 月1回のケア会議、スタッフ会議で要望を聞いて検討している。研修係、食材係、通信係、イベント係、消耗品係などの係分担があり、ホームの運営に生かし改善に繋げている。上司との面談も年1回行っている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 去年は岩手県の温泉旅行に行った。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 経験の差を埋めるように推進している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修に参加しているが、時間が確保できない時もある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 不安を解消する声掛け、思いを共有するケアに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 面会時に利用者様の生活の様子など話し信頼関係に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 常に心掛け努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家族の方々と相談しあい協力を得ながら支え合っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時家族様との会話が進まない時など職員が間に入り共通の話して絆を深められる様に心掛けている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 努めているが、忘れてしまうことも多い。 | 個々の希望する場所に出かけている。自宅に荷物を取りに同行したり、知人や親族が事業所へ来訪し易いよう支援に努めている。2ヶ月に1回、理容師が来訪し馴染みになっており、カラーリングをするのを楽しみにしている利用者もいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 気の合わない利用者様が居るので席替え等行い配慮している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他サービスに移った後も経過を知る努力はしているが、契約終了すると合う機会がない。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 暮らし方は一人ひとり違うので本人本位に努めている。 | 家族と連絡を密に取り、職歴、趣味を把握し、事業所での生活を通して本人の要望を把握している。花や木の好きな利用者には植物の本を用意したり、ぬり絵の好きな利用者にはぬり絵セットを用意するなど、要望に応えられるように支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 努めている。横になりたい、居室で一人で過ごしたい方は自由にして頂いている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 現状に即した介護計画の作成を図っている。 | 3ヶ月1回、ケア会議の時に利用者のモニタリングの結果と共に、職員の意見を聞き、介護計画書を作成している。状態の変化のある利用者は、その都度見直している。家族の意見も確認し反映している。見直した介護計画は説明し、同意を得ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日誌・特記事項に記載し情報共有を図っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 臨機応変な対応を心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域との交流はなかなか図れていない。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診する前に家族に了承得て受診している。協力医院以外にも必要あれば受診行っている。 | 全員が事業所の近くの登米市立豊里病院がかかりつけ医で、月1回職員が同行し受診し、緊急性がなければ毎月の「お便り」と一緒に家族に報告をしている。他の病院への受診は家族が付き添い、受診結果の報告を受けている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 個人個人観察し小さな変化も見逃さない様に努め情報の共有に努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療機関との関係作りは努めているが、医療機関の対応に納得いかない時もある。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 家族の意向を確認したうえ職員も対応出来るように努めている。 | 「終末期ケアにおける確認事項」「重度化対応・終末期ケア対応指針同意書」を作成し、入居時に説明し、同意を得ている。週1回の看護師の健康管理に加え、緊急時には、近くの協力医療機関との連携が図られている。現在看取りは行っていない。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 研修を実施しているが、忘れてしまったり日々状況も違うため、どういう状況でも適切な対応が出来るようにしたい。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 防災訓練は地域の方々にも協力して頂き行った。 | 非常災害時のマニュアルを作成し、年2回、夜間想定訓練を含めて、避難口の確認など、防災訓練を行っている。地域住民の参加協力もあり、全員でAEDの使用方法についての講習会を行った。備蓄は3日分用意している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 表情や声のトーンなどに注意し敬意を払い接したい。 | 安全と転倒防止のための離床センサーを使用している利用者もいるが、人格を尊重し、プライバシーを損ねないように配慮している。呼び名は、名前に「さん」付を基本としているが、本人が希望する呼び名で対応している利用者もいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の希望・要望を聞き自己決定できる様に図っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員側のペースになっている事もあるが、個々のペースを大切に支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 好みの衣類を準備したり購入時本人の好みを取り入れている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 機能低下で準備・片付けを行う事は難しくなってきたが、食事を楽しく摂取出来るように配慮している。 | 献立作成と食材の配達を業者に依頼し、職員が作っている。お節料理、節分、ひな祭りなど、毎月行事食を取り入れ、楽しく食事ができるように支援している。外出時には外食をしたり、クリスマス会でのバイキング料理は利用者の楽しみのひとつになっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個々に合った摂取量を提供しつつ状態に合わせて食事形態を変えている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを実施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄表を参考にし声掛け行いトイレで排泄する様に図っている。 | 排泄チェックに記入したパターンを把握し、利用者の状態に合わせて声かけを行い、自立に向けた支援に努めている。便秘がちな利用者には、主治医が処方した薬を服用すると共に、水分補給・体操・乳製品で対応している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | カスピ海ヨーグルトをおやつに摂取し体操・服薬にて対応している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴する曜日をこちらで設定しているが、声掛けし了解を得てから入浴行っている。入浴を拒否した際は次の日と交換する等、対応している。 | 毎日入浴を希望する利用者もいるが、週2～3回が基本である。湯は午前、午後で入れ換え、入浴できない場合は、入浴剤入りの湯を用意し足浴で対応している。入浴拒否の利用者には、声かけなど工夫し対応している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 本人の意思を尊重し自由に過ごせる様にしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋をファイルし常に閲覧できるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 歌を歌ったり、TVを観たり会話やゲーム、記念日等で気分転換を図っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 冬の時期は外出する機会が少ないが、気候の良い時期は外出の機会を多く取っている。必ずしも希望に沿った外出支援は困難だがイベントや個別支援を図っている。 | 年間計画を立て、桜の花見、花菖蒲の見学、豊里よさこい祭り見学、町民文化祭、リンゴ狩りなどに出かけている。日常的には天候を見ながら、外食を兼ねて気分転換にドライブに出かけることもある。町内で開催している認知症カフェに参加するなど、個別の支援もしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 置き忘れなどトラブル発生することあり、金銭を所持している利用者は3人のみ。欲しい物など購入希望あれば、いつでも使える様にしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 要望あれば依頼時に対応している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節毎に壁紙など装飾を工夫し居心地良く過ごせる様に配慮している。 | 天井が吹き抜けになっており明るく、温・湿度は職員が管理し、居心地の良い空間になっている。利用者の多くが常に共用空間で過ごし、ソファでお昼寝をしている利用者もいる。壁には、利用者の作品「割り箸アート」や折り紙のお雛様が飾られている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 他者に干渉される事もあり、独りなれる空間はもちにくい。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族に本人様が愛用していた物を持参して頂くよう説明おこなっている。 | テレビや位牌、電気毛布を持って来ている利用者もいるが、自宅で愛用していた物を持参してもらっている。家族写真や本人の手作りの作品、行事写真などが飾られ、その人らしい部屋づくりになるように配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室やトイレ等分かり易い様に努めている。 | | |